

平成26年度 幸区区民アンケート調査 概要版

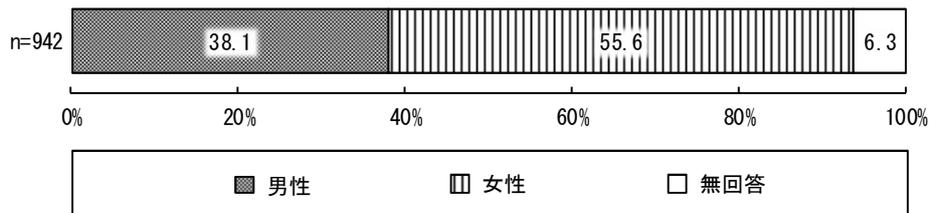
調査の概要

- 【調査対象】 幸区在住の満20歳以上の男女個人2,000人（外国人を含む）
- 【標本抽出】 平成26年3月31日現在の住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
- 【調査方法】 郵送配布—郵送回収法
- 【調査期間】 平成26年8月26日～9月8日
- 【回収状況】 調査件数：2,000件
有効回収数：942件
有効回収率：47.1%
- 【調査項目】
- | | |
|------------------------|----------------|
| (1) 幸区への愛着や住みやすさなどについて | (7) 子育て支援について |
| (2) 区内の公園について | (8) 児童虐待について |
| (3) 自転車事故防止対策について | (9) 高齢者支援について |
| (4) 防災について | (10) 障害者支援について |
| (5) 区民サービスについて | (11) 健康づくりについて |
| (6) 地域コミュニティについて | |

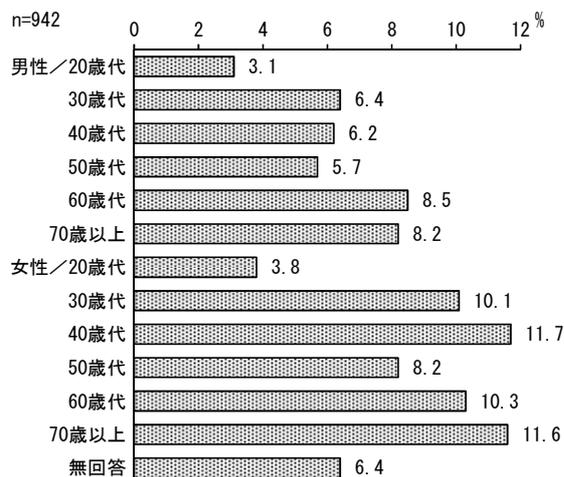
※ 図中における基数となるべき実数(n)は回答者数を示している。また、本文中の「構成比(%)」は小数点以下第2位を四捨五入していること、並びに複数回答によるものも含まれていることから、構成比の合計が100%に満たない、あるいは上回る場合がある。

○調査回答者の属性

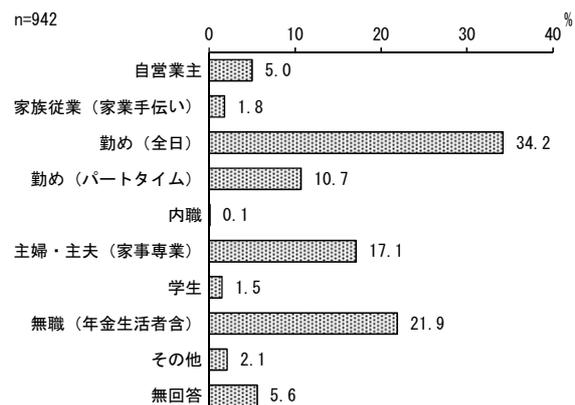
【F1】性別



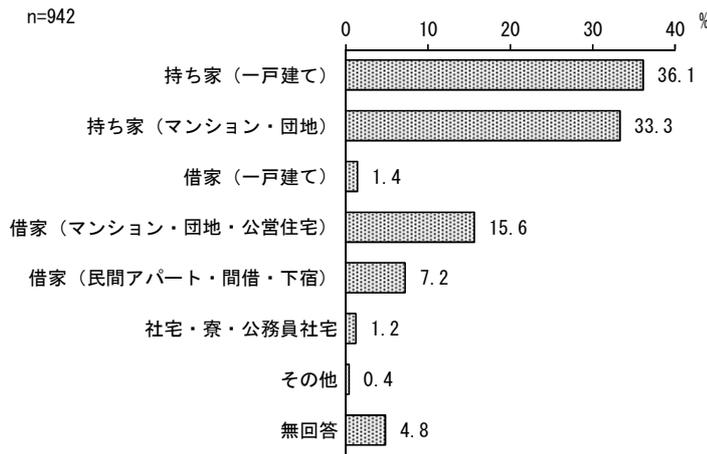
【F2】年齢



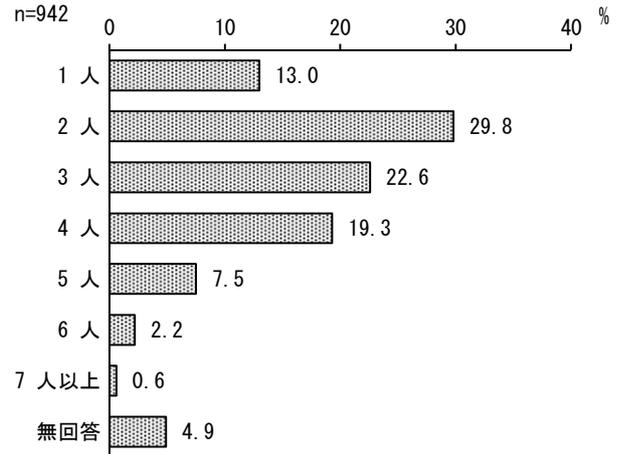
【F3】職業



【F4】居住形態

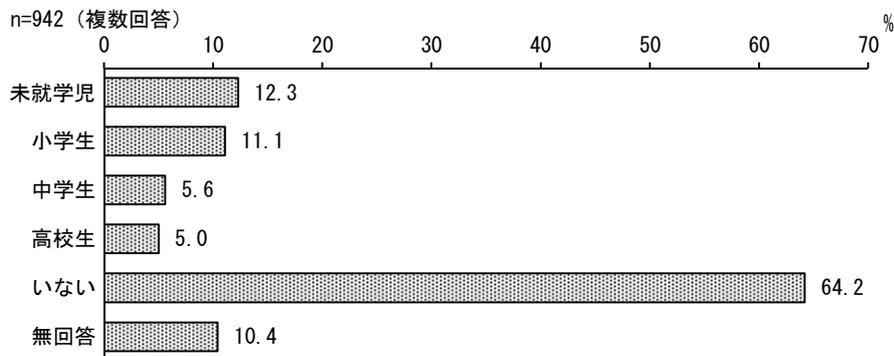


【F5】同居家族

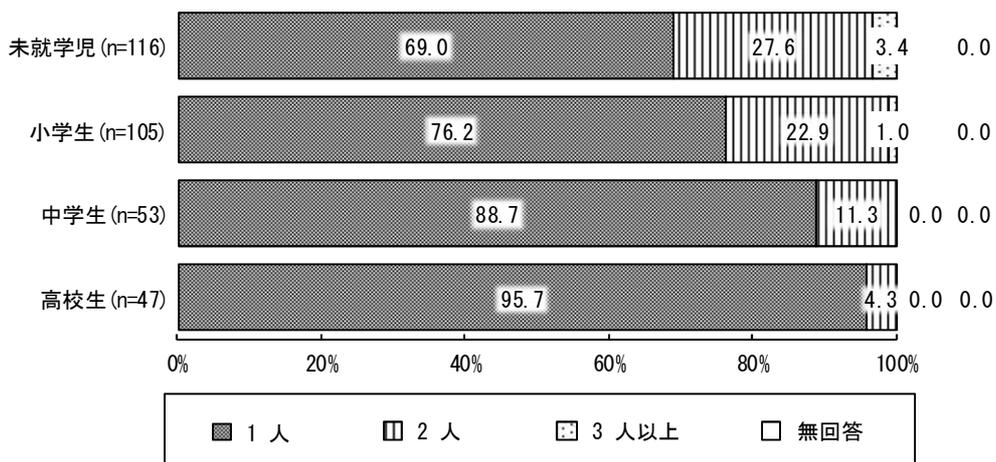


【F6】同居の未就学児、小学生、中学生、高校生の有無と人数

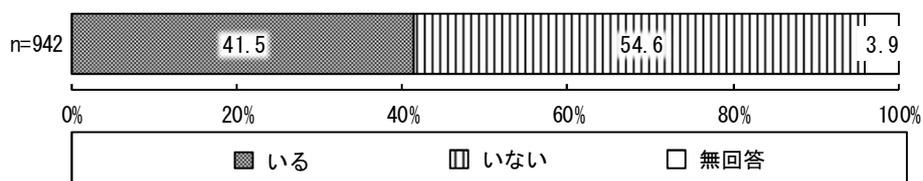
① 未就学児、小学生、中学生、高校生の有無



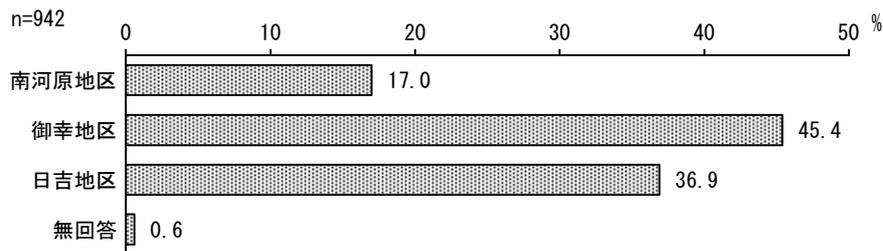
② 未就学児、小学生、中学生、高校生の人数



【F7】高齢者（65歳以上）の同居状況



【F8】居住地区



※各地区の内訳

【幸区役所管内】

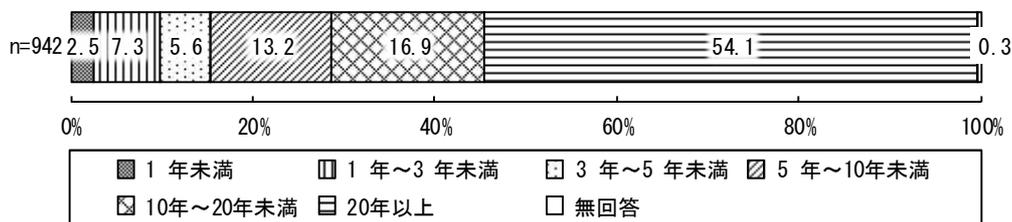
南河原地区：大宮町、幸町、中幸町、堀川町、南幸町、都町、柳町

御幸地区：遠藤町、河原町、小向町、小向仲野町、小向西町、紺屋町、下平間、新塚越、神明町、塚越、戸手、戸手本町、東古市場、古市場、古川町

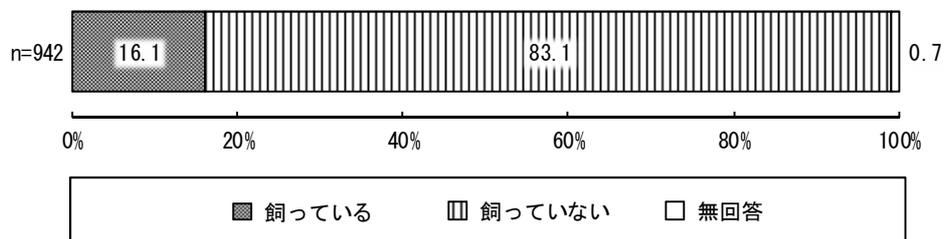
【日吉出張所管内】

日吉地区：小倉、鹿島田、北加瀬、新川崎、東小倉、南加瀬、矢上

【F9】居住年数



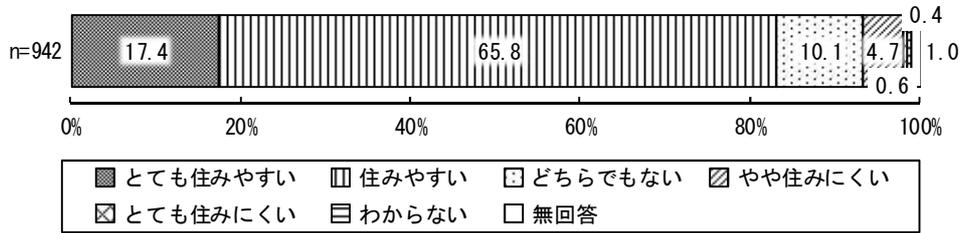
【F10】ペットの有無



1 幸区への愛着や住みやすさなどについて

(1) 幸区の住みやすさ

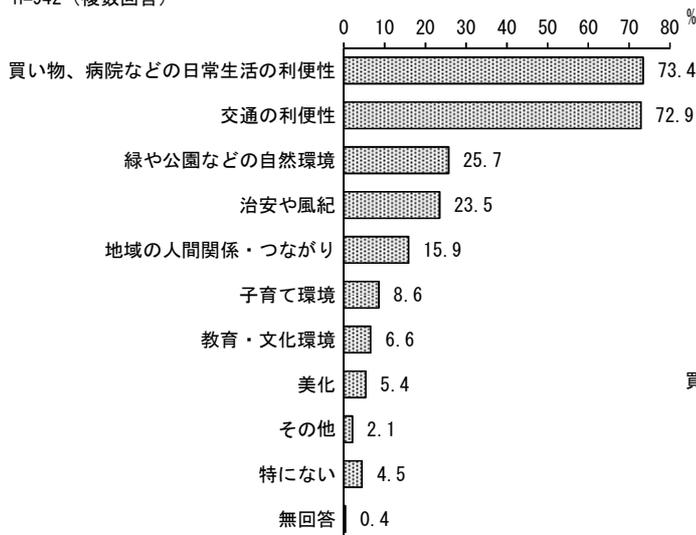
「とても住みやすい」(17.4%)、「住みやすい」(65.8%)を合わせると、83.2%が住みやすいと感じている。



(2) 幸区の良いと感じるところ

「買い物、病院などの日常生活の利便性」が73.4%で最も高く、次いで「交通の利便性」(72.9%)、「緑や公園などの自然環境」(25.7%)と続いている。

n=942 (複数回答)

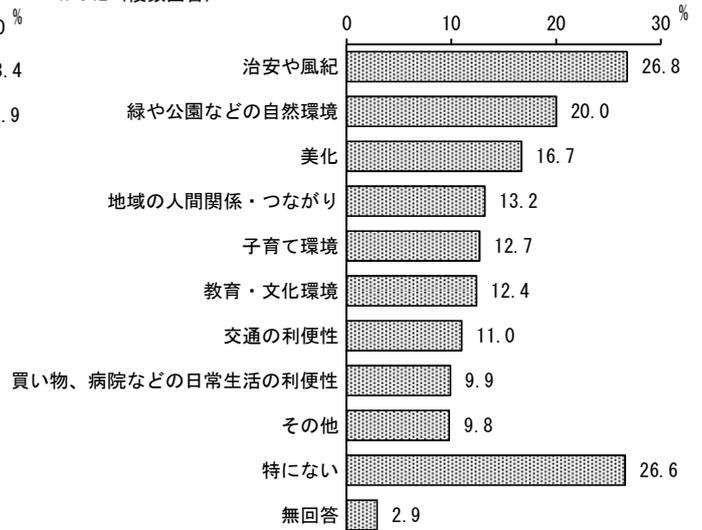


(3) 幸区の不満に感じる場所

「治安や風紀」が26.8%で最も高く、次いで「緑や公園などの自然環境」(20.0%)、「美化」(16.7%)と続いている。

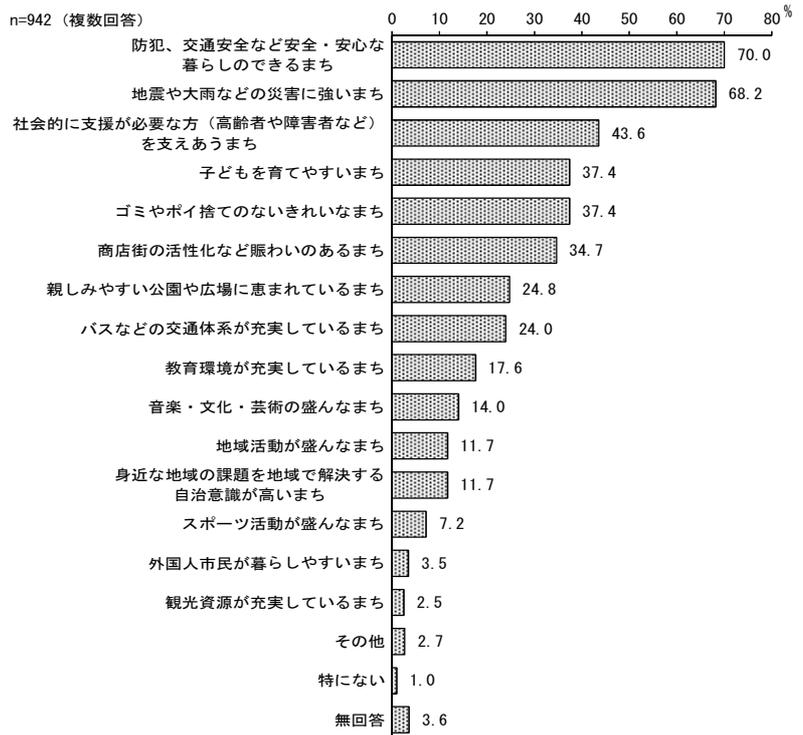
一方、「特にない」は26.6%となっている。

n=942 (複数回答)



(4) 10年後の幸区について、どのようなまちをめざすべきか

「防犯、交通安全など安全・安心な暮らしのできるまち」が70.0%で最も高く、次いで、「地震や大雨などの災害に強いまち」(68.2%)、「社会的に支援が必要な方(高齢者や障害者など)を支えあうまち」(43.6%)と続いている。

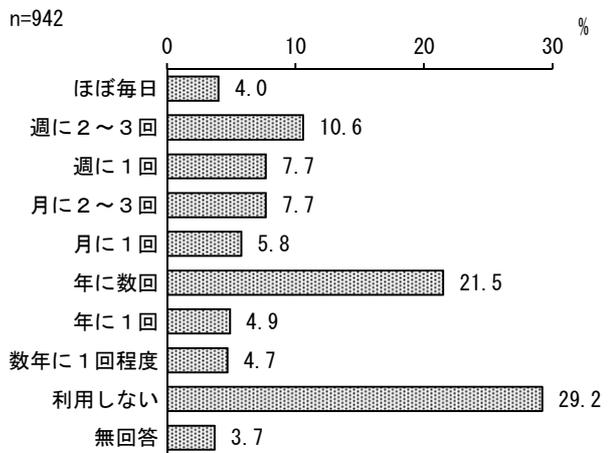


2 区内の公園について

(1) 公園の利用頻度

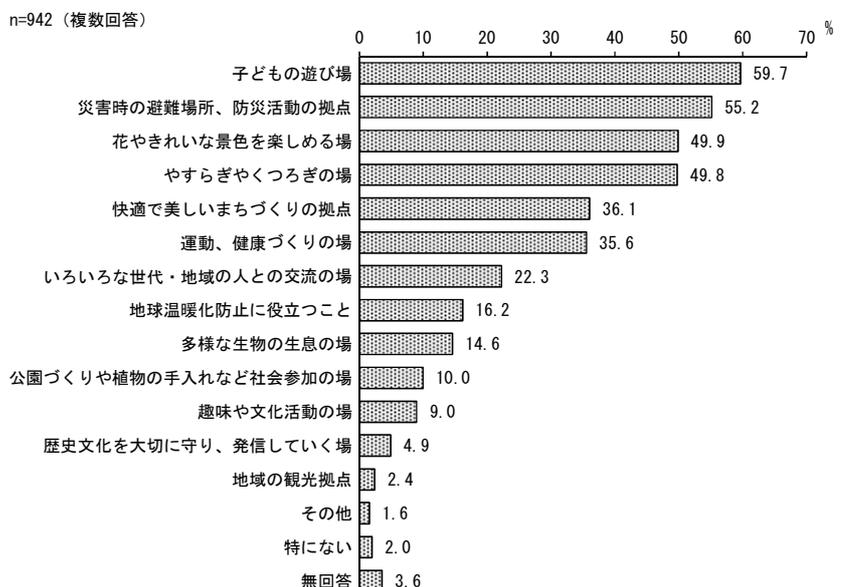
利用していると回答した人でみると、「年に数回」が21.5%で最も高く、次いで「週に2~3回」(10.6%)、「週に1回」(7.7%)、「月に2~3回」(7.7%)と続いている。

また「ほぼ毎日」は4.0%、「利用しない」は29.2%となっている。



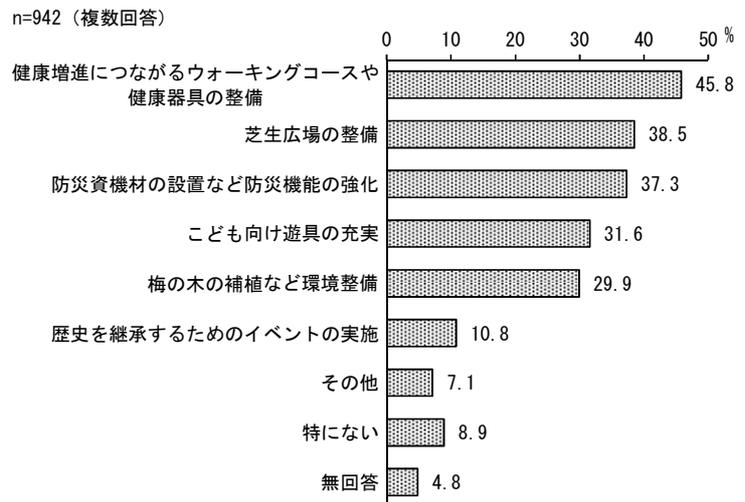
(2) 期待する公園の役割

「子どもの遊び場」が59.7%で最も高く、次いで「災害時の避難場所、防災活動の拠点」(55.2%)、「花やきれいな景色を楽しめる場」(49.9%)、「やすらぎやつろぎの場」(49.8%)と続いている。



(3) 御幸公園の魅力向上について

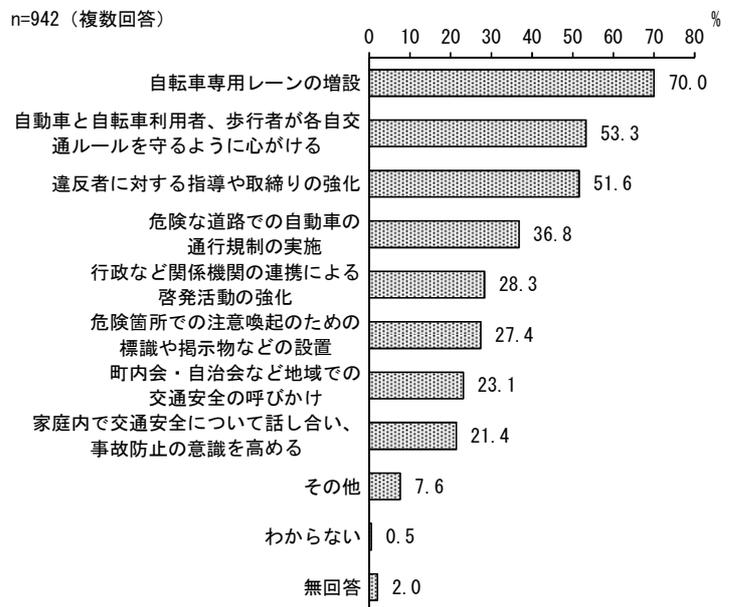
「健康増進につながるウォーキングコースや健康器具の整備」が45.8%で最も高く、次いで「芝生広場の整備」(38.5%)、「防災資機材の設置など防災機能の強化」(37.3%)と続いている。



3 自転車事故防止対策について

(1) 自転車事故をなくすために有効だと思う対策

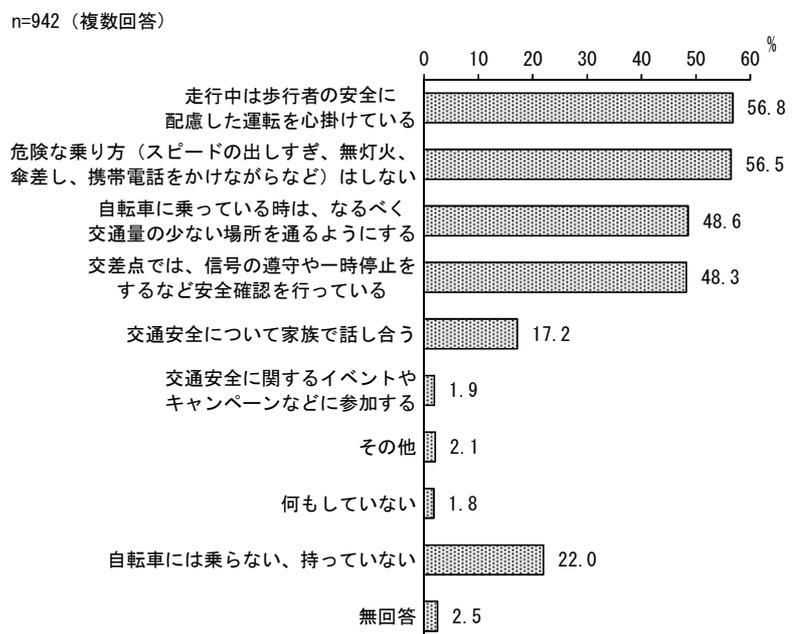
「自転車専用レーンの増設」が70.0%で最も高く、次いで「自動車と自転車利用者、歩行者が各自交通ルールを守るように心がける」(53.3%)、「違反者に対する指導や取締りの強化」(51.6%)と続いている。



(2) 自転車事故防止のために行っていること

「走行中は歩行者の安全に配慮した運転を心掛けている」が56.8%で最も高く、次いで「危険な乗り方(スピードの出しすぎ、無灯火、傘差し、携帯電話をかけたままなど)はしない」(56.5%)、「自転車に乗っている時は、なるべく交通量の少ない場所を通るようにする」(48.6%)と続いている。

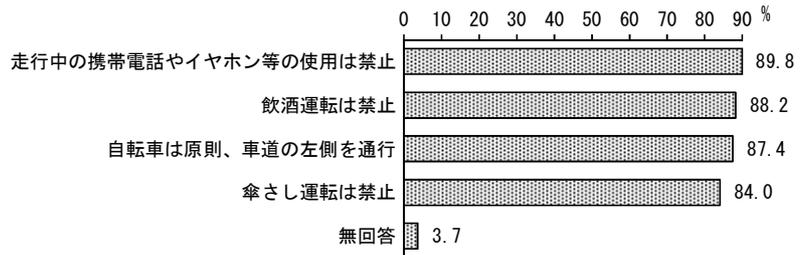
一方、「自転車には乗らない、持っていない」は22.0%となっている。



(3) 認識している自転車利用の交通ルール

「走行中の携帯電話やイヤホン等の使用は禁止」が 89.8%で最も高く、次いで「飲酒運転は禁止」(88.2%)、「自転車は原則、車道の左側を通行」(87.4%)と続いている。

n=942 (複数回答)



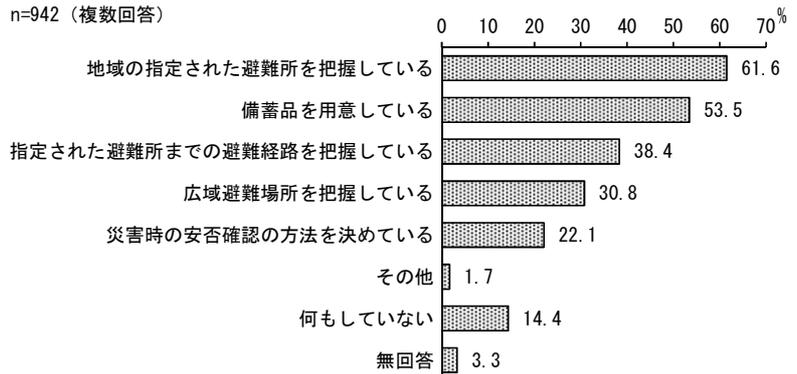
4 防災について

(1) 災害に備えて行っていること

「地域の指定された避難所を把握している」が 61.6%で最も高く、次いで「備蓄品を用意している」(53.5%)、「指定された避難所までの避難経路を把握している」(38.4%)と続いている。

一方、「何もしていない」は 14.4%となっている。

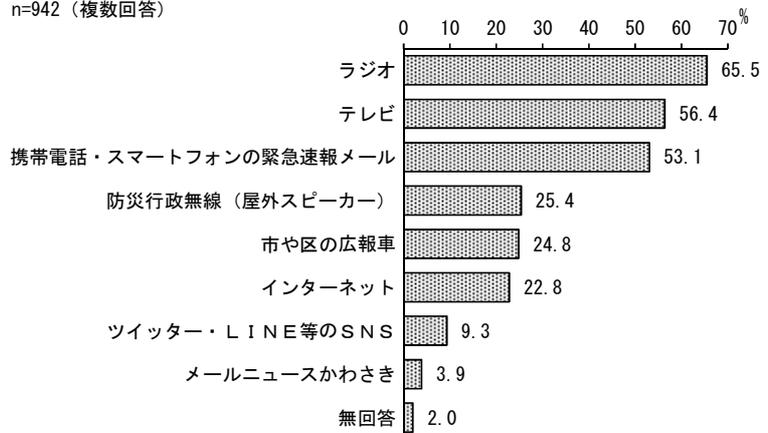
n=942 (複数回答)



(2) 災害時の情報入手手段として有効なもの

「ラジオ」が 65.5%で最も高く、次いで「テレビ」(56.4%)、「携帯電話・スマートフォンの緊急速報メール」(53.1%)と続いている。

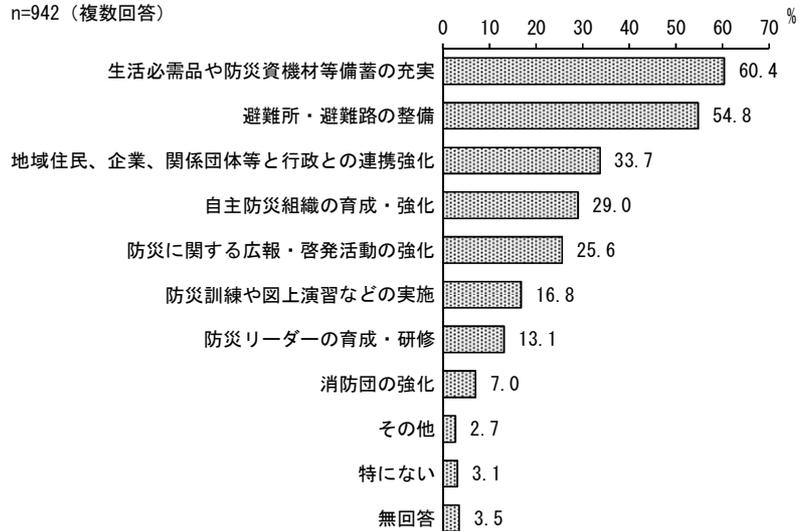
n=942 (複数回答)



(3) 地域の防災力向上のため力を入れるべきもの

「生活必需品や防災資機材等備蓄の充実」が 60.4%で最も高く、次いで「避難所・避難路の整備」(54.8%)、「地域住民、企業、関係団体等と行政との連携強化」(33.7%)と続いている。

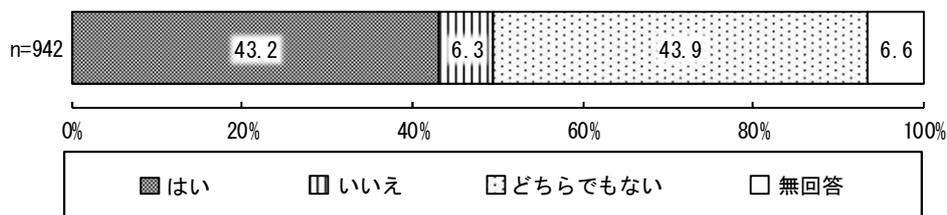
n=942 (複数回答)



5 区民サービスについて

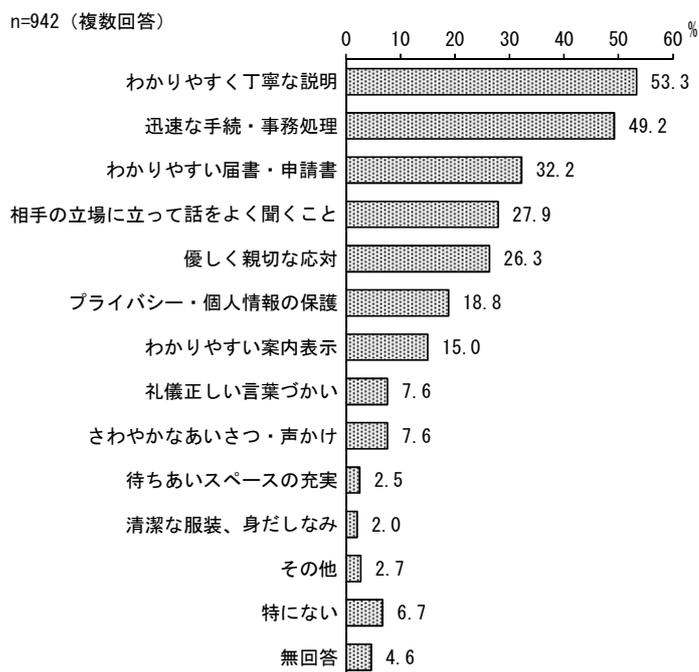
(1) 幸区役所職員の対応に満足しているか

「はい」が43.2%、「どちらでもない」が43.9%となっている。



(2) 幸区役所等での窓口サービスで期待するもの

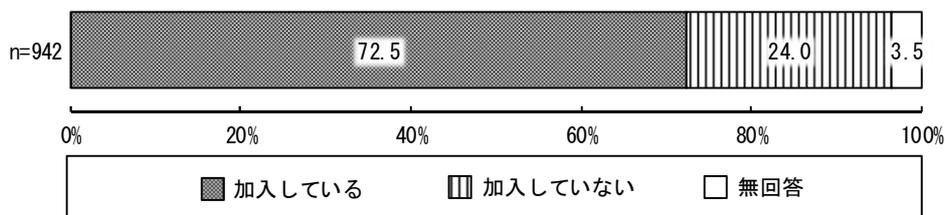
「わかりやすく丁寧な説明」が53.3%で最も高く、次いで「迅速な手続・事務処理」(49.2%)、「わかりやすい届書・申請書」(32.2%)と続いている。



6 地域コミュニティについて

(1) 町内会・自治会への加入状況

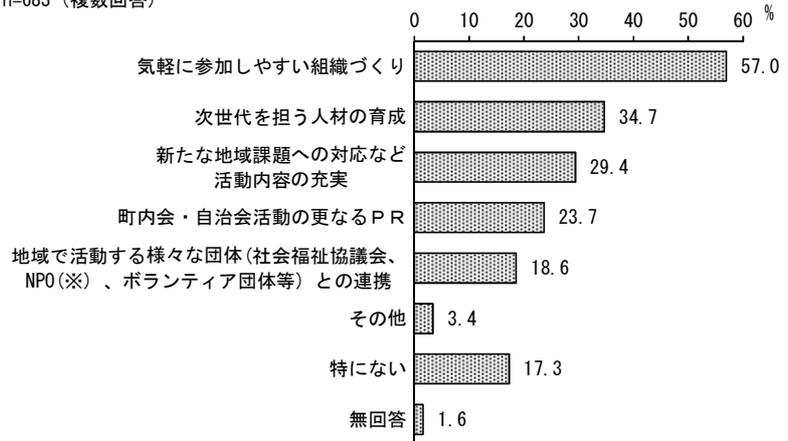
「加入している」が72.5%となっている。



(2) 町内会・自治会活動に期待すること

「加入している」人に期待することを聞いたところ、「気軽に参加しやすい組織づくり」が57.0%で最も高く、次いで「次世代を担う人材の育成」(34.7%)、「新たな地域課題への対応など活動内容の充実」(29.4%)と続いている。

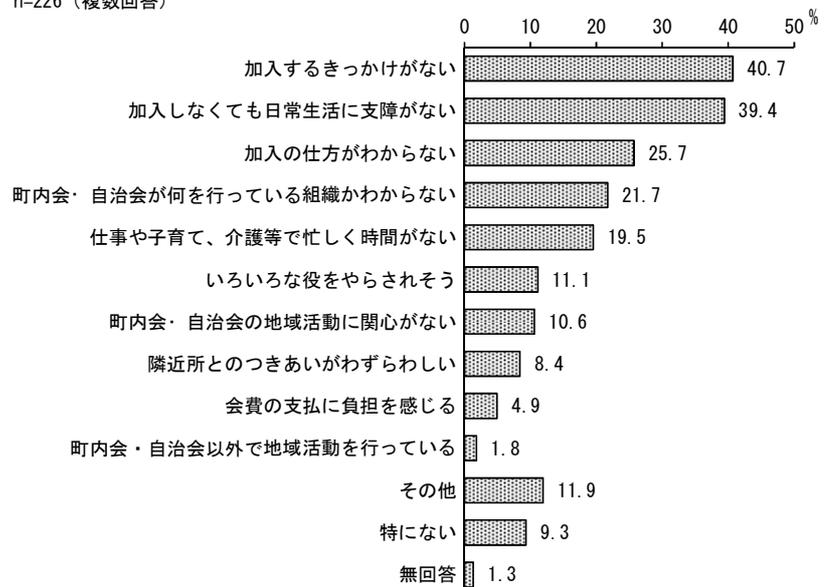
n=683 (複数回答)



(3) 町内会・自治会に加入していない理由

「加入していない」人に理由を聞いたところ、「加入するきっかけがない」が40.7%で最も高く、次いで「加入しなくても日常生活に支障がない」(39.4%)、「加入の仕方がわからない」(25.7%)と続いている。

n=226 (複数回答)

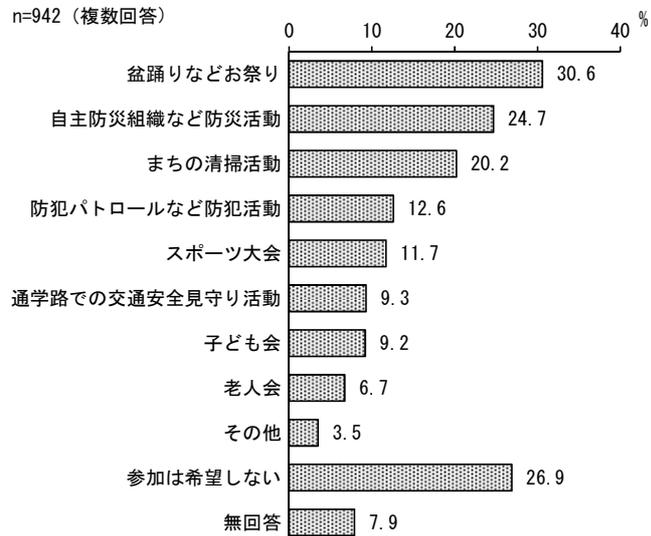


(4) 町内会・自治会が行っている活動の中で参加してみたいこと

「盆踊りなどお祭り」が30.6%で最も高く、次いで「自主防災組織など防災活動」(24.7%)、「まちの清掃活動」(20.2%)と続いている。

一方、「参加は希望しない」は26.9%となっている。

n=942 (複数回答)

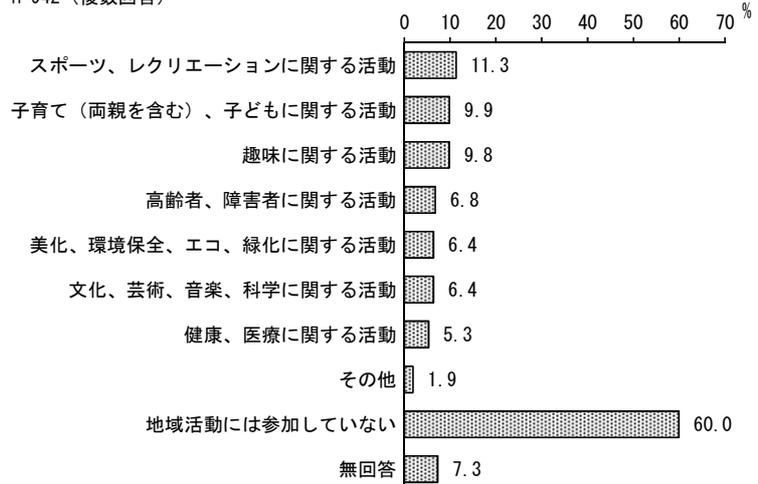


(5) 町内会・自治会活動以外に参加している地域の活動

「スポーツ、レクリエーションに関する活動」が 11.3%で最も高く、次いで「子育て（両親を含む）、子どもに関する活動」（9.9%）、「趣味に関する活動」（9.8%）と続いている。

一方、「地域活動には参加していない」は 60.0%となっている。

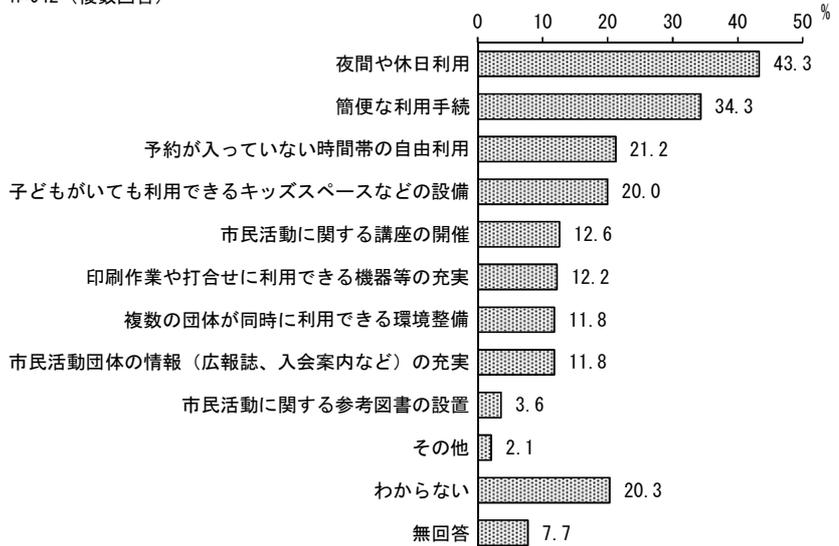
n=942（複数回答）



(6) 幸区役所新庁舎に市民活動コーナーを設置するにあたって期待すること

「夜間や休日利用」が 43.3%で最も高く、次いで「簡便な利用手続」（34.3%）、「予約が入っていない時間帯の自由利用」（21.2%）と続いている。

n=942（複数回答）

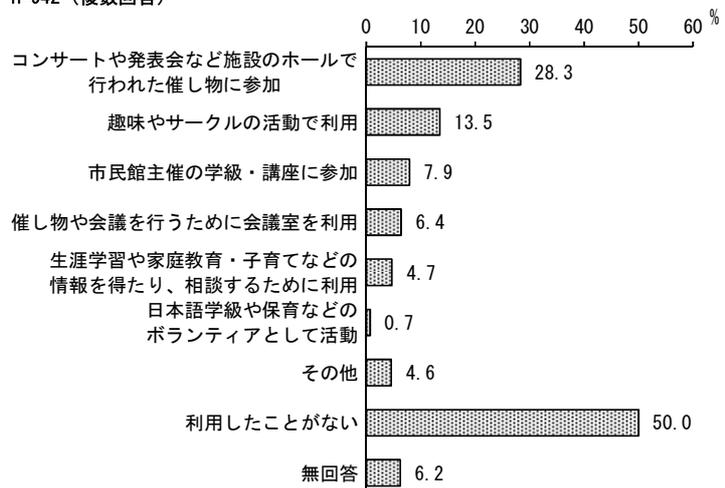


(7) 幸市民館（幸文化センター）・日吉分館の利用状況

「コンサートや発表会など施設のホールで行われた催し物に参加」が 28.3%で最も高く、次いで「趣味やサークルの活動で利用」（13.5%）、「市民館主催の学級・講座に参加」（7.9%）と続いている。

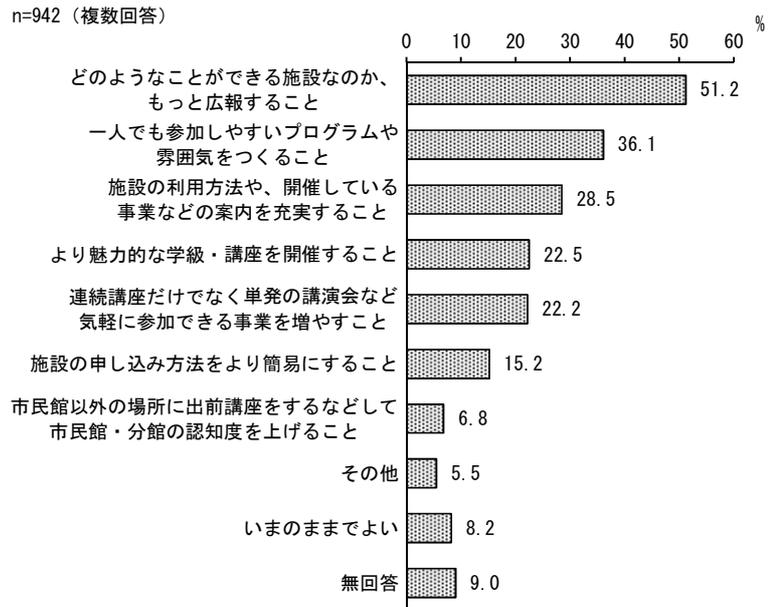
一方、「利用したことがない」は 50.0%となっている。

n=942（複数回答）



(8) 幸市民館（幸文化センター）・日吉分館をもっと利用してもらうための工夫

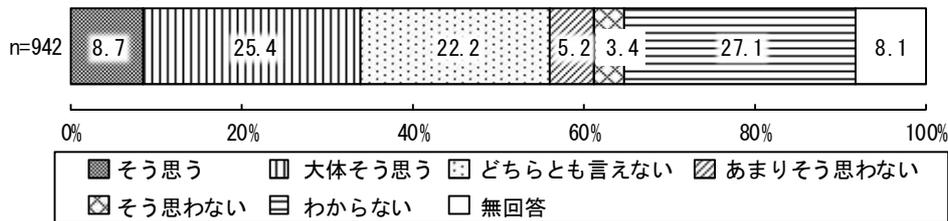
「どのようなことができる施設なのか、もっと広報すること」が51.2%で最も高く、次いで「一人でも参加しやすいプログラムや雰囲気をつくること」(36.1%)、「施設の利用方法や、開催している事業などの案内を充実すること」(28.5%)と続いている。



7 子育て支援について

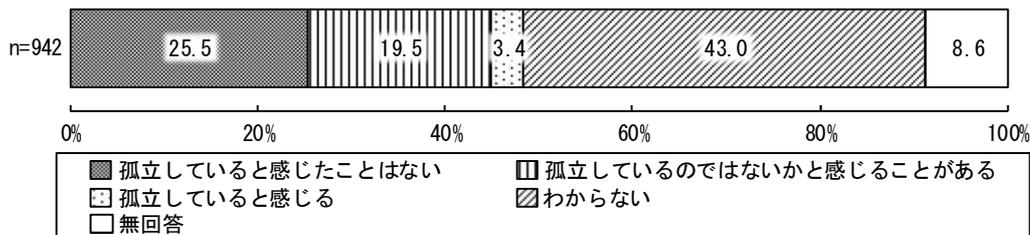
(1) 幸区は出産・子育てがしやすいか

「そう思う」(8.7%)、「大体そう思う」(25.4%)を合わせると、34.1%が出産・子育てがしやすいまちだと思っている。



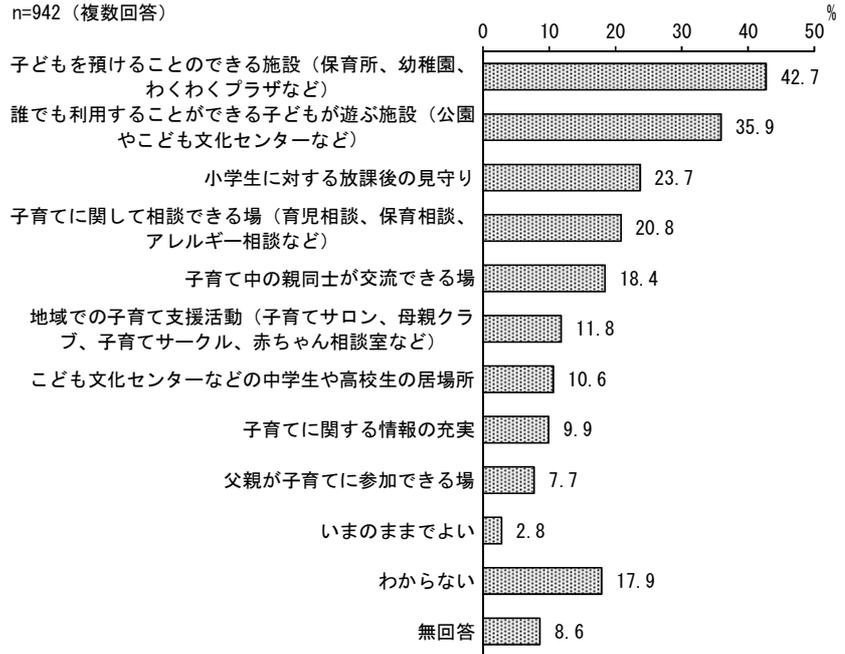
(2) 子育てをしている世帯の孤立状況

「孤立していると感じたことはない」が25.5%で最も高く、次いで「孤立しているのではないかと感じることもある」(19.5%)、「孤立していると感じる」(3.4%)と続いている。一方、「わからない」は43.0%となっている。



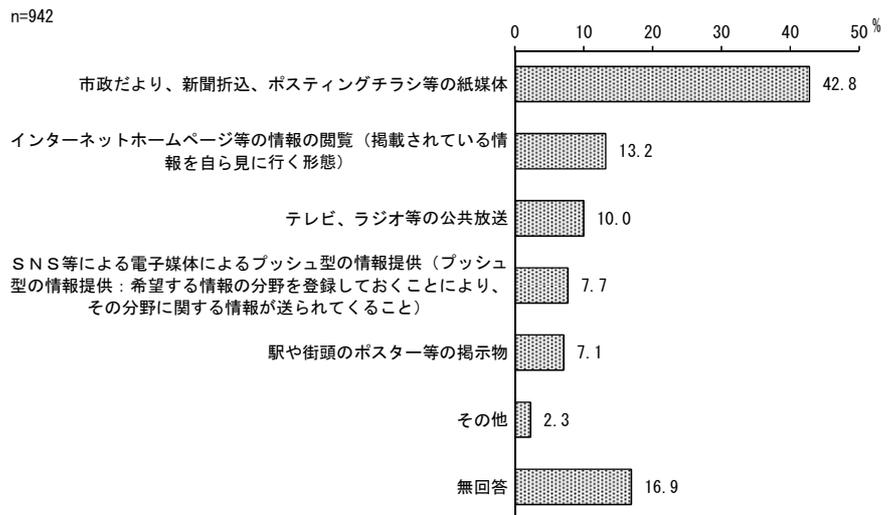
(3) 子ども・子育てにとって充実したほうがよいもの

「子どもを預けることのできる施設（保育所、幼稚園、わくわくプラザなど）」が42.7%で最も高く、次いで「誰でも利用することができる子どもが遊ぶ施設（公園やこども文化センターなど）」（35.9%）、「小学生に対する放課後の見守り」（23.7%）と続いている。



(4) 子ども・子育てに関する情報提供の有効手段について

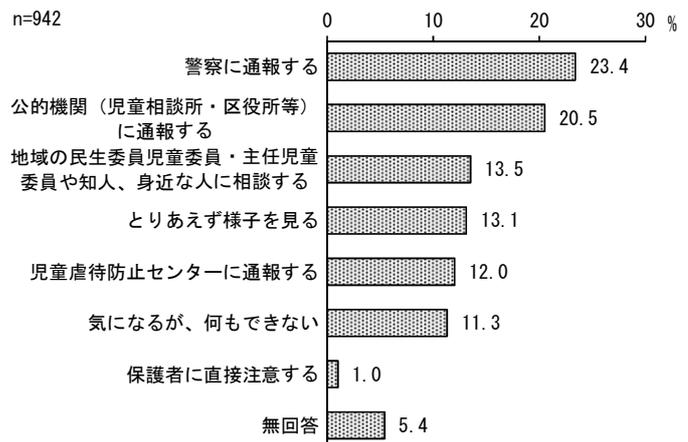
「市政だより、新聞折込、ポスティングチラシ等の紙媒体」が42.8%で最も高く、次いで「インターネットホームページ等の情報の閲覧（掲載されている情報を自ら見に行く形態）」（13.2%）、「テレビ、ラジオ等の公共放送」（10.0%）と続いている。



8 児童虐待について

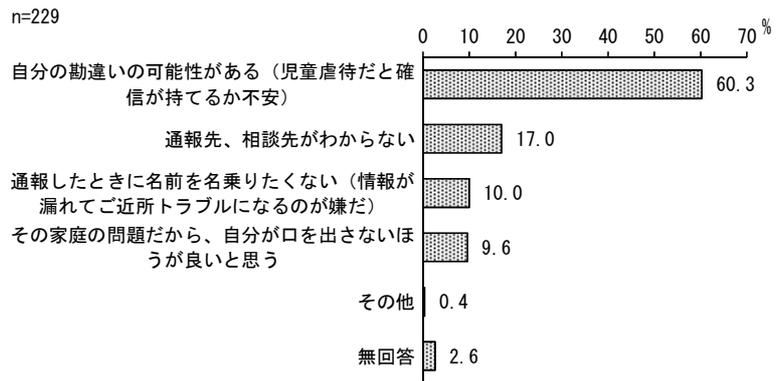
(1) 児童虐待が行われている家庭への対応

「警察に通報する」が23.4%で最も高く、次いで「公的機関（児童相談所・区役所等）に通報する」（20.5%）、「地域の民生委員児童委員・主任児童委員や知人、身近な人に相談する」（13.5%）と続いている。



(2) 児童虐待への消極的対応の理由

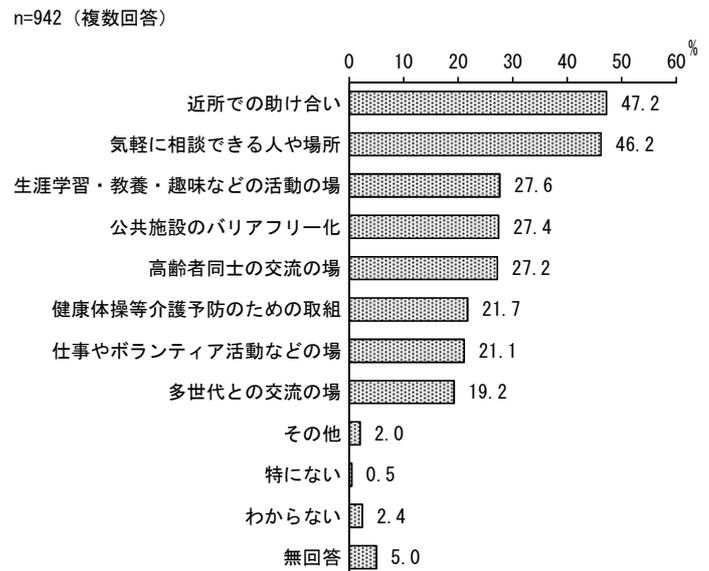
児童虐待が行われている家庭への対応で「気になるが、何もできない」、「とりあえず様子を見る」を選んだ人に理由を聞いたところ、「自分の勘違いの可能性はある(児童虐待だと確信が持てるか不安)」が60.3%で最も高く、次いで「通報先、相談先がわからない」(17.0%)、「通報したときに名前を名乗りたくない(情報が漏れてご近所トラブルになるのが嫌だ)」(10.0%)と続いている。



9 高齢者支援について

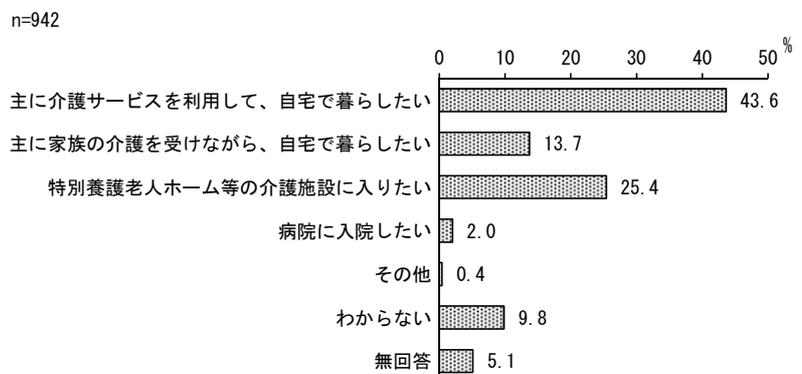
(1) これからの高齢社会において地域で必要だと思うこと

「近所での助け合い」が47.2%で最も高く、次いで「気軽に相談できる人や場所」(46.2%)、「生涯学習・教養・趣味などの活動の場」(27.6%)と続いている。



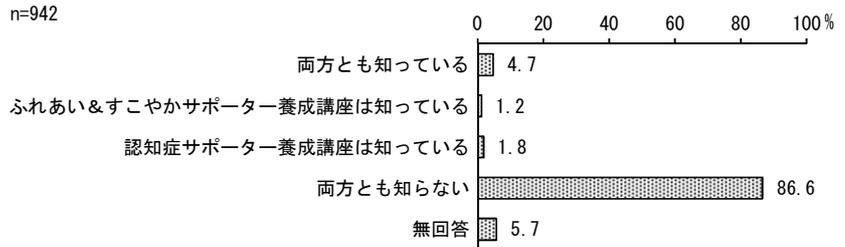
(2) 介護が必要になった場合の生活

「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が43.6%で最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の介護施設に入りたい」(25.4%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(13.7%)と続いている。



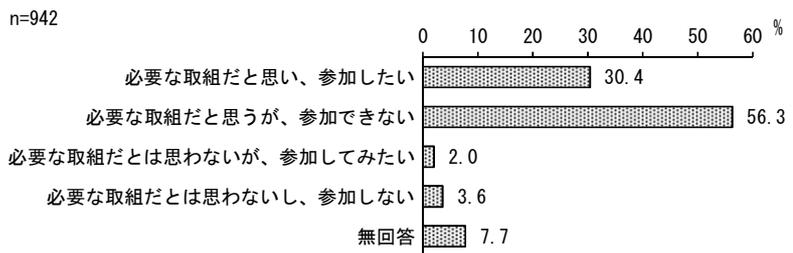
(3) ふれすこサポーター養成講座、認知症サポーター養成講座について

「両方知っている」(4.7%)、「ふれあい&すこやかサポーター養成講座は知っている」(1.2%)、「認知症サポーター養成講座は知っている」(1.8%)を合わせると、7.7%が養成講座について知っている。一方、「両方とも知らない」は86.6%となっている。



(4) ふれすこサポーター養成講座など、自助・互助を推進する取組の必要性と参加意思

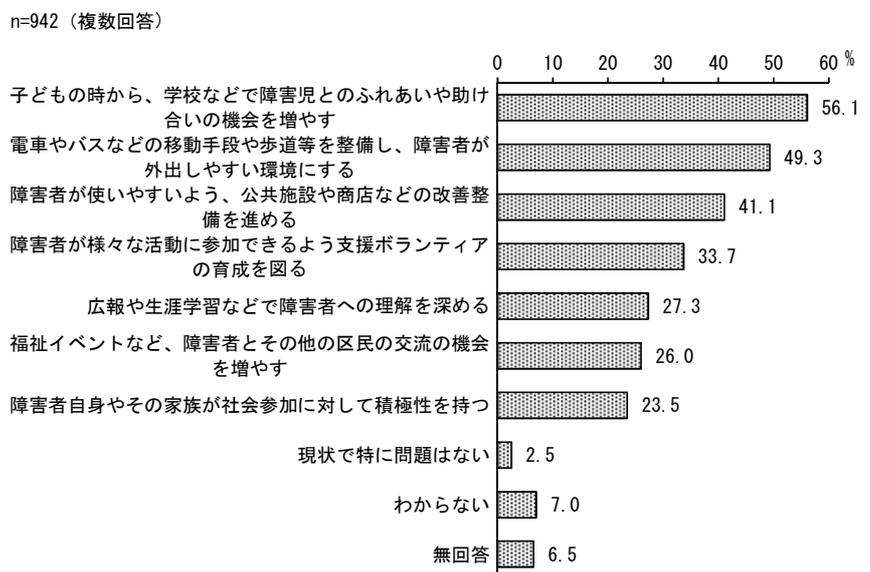
「必要な取組だと思うが、参加できない」が56.3%で最も高く、次いで「必要な取組だと思う、参加したい」(30.4%)、「必要な取組だとは思わないが、参加してみたい」(2.0%)、「必要な取組だとは思わないし、参加しない」(3.6%)と続いている。



10 障害者支援について

(1) 障害者の積極的な地域・社会参加に大切だと思うもの

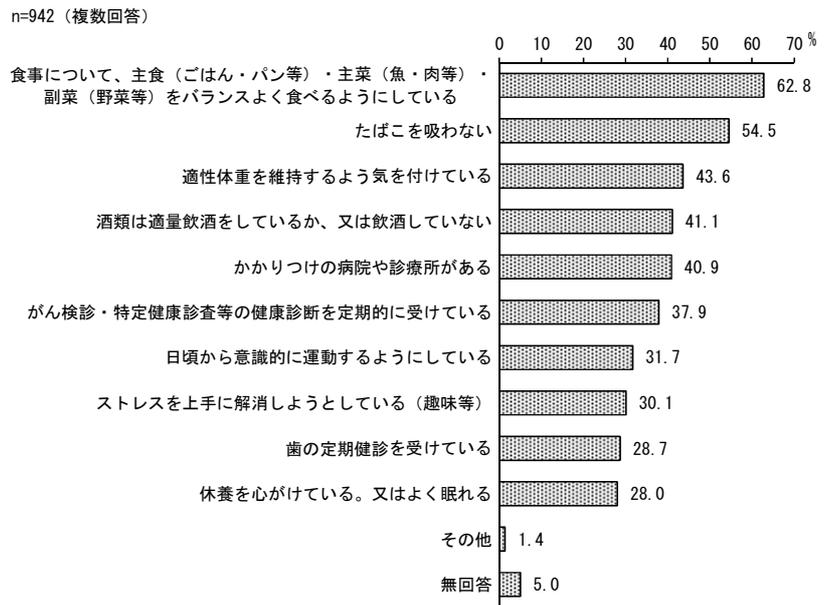
「子どもの時から、学校などで障害児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が56.1%で最も高く、次いで「電車やバスなどの移動手段や歩道等を整備し、障害者が外出しやすい環境にする」(49.3%)、「障害者が使いやすいよう、公共施設や商店などの改善整備を進める」(41.1%)と続いている。



11 健康づくりについて

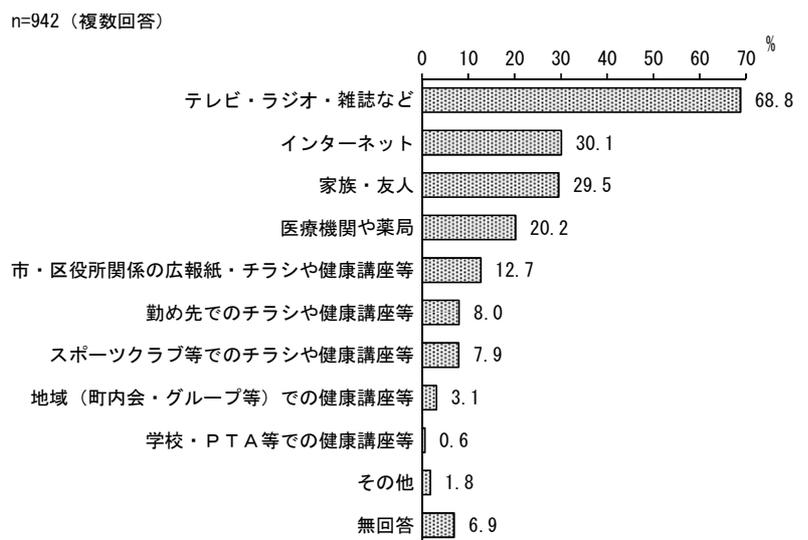
(1) 健康管理について行っていること

「食事について、主食（ごはん・パン等）・主菜（魚・肉等）・副菜（野菜等）をバランスよく食べるようにしている」が 62.8%で最も高く、次いで「たばこを吸わない」（54.5%）、「適性体重を維持するよう気を付けている」（43.6%）と続いている。



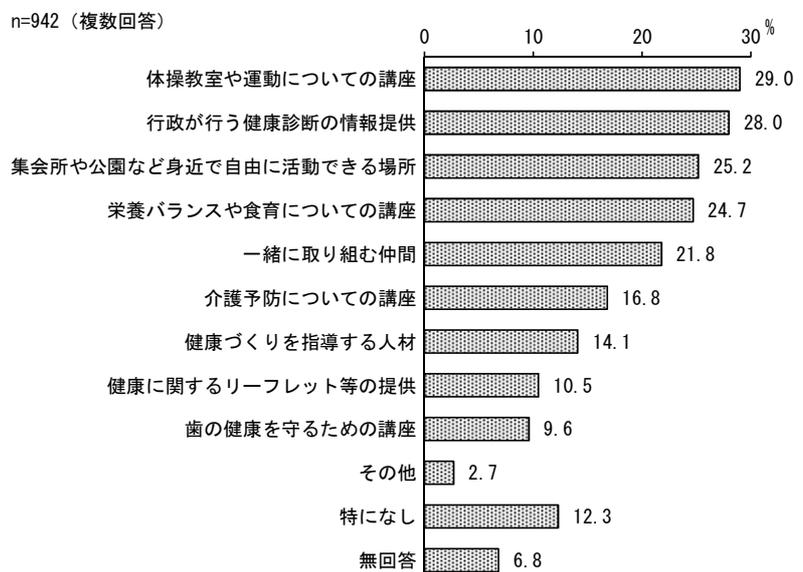
(2) 健康づくりに関する情報入手手段

「テレビ・ラジオ・雑誌など」が 68.8%で最も高く、次いで「インターネット」（30.1%）、「家族・友人」（29.5%）と続いている。



(3) 健康づくりの取組に関してより充実したほうがよいと思うもの

「体操教室や運動についての講座」が 29.0%で最も高く、次いで「行政が行う健康診断の情報提供」（28.0%）、「集会所や公園など身近で自由に活動できる場所」（25.2%）と続いている。





平成 26 年度 幸区区民アンケート調査 <概要版>

平成 26 年 12 月

発行 幸区役所 まちづくり推進部企画課

〒212-8570 川崎市幸区戸手本町 1-11-1

TEL 044-556-6612(直通)

FAX 044-555-3130

メールアドレス 63kikaku@city.kawasaki.jp